

第43回講座

日本が戦争を しないために ～抑止力とはなにか～

第1部

講演「戦争とジャーナリズム」

アニメーション

「戦争のつくりかた」(約8分)

第2部

フリーディスカッション

「丸山貢一さんと皆で語ろう」

当日参加も
歓迎!

政府は、戦争を防ぐには、相手が攻めて
来る前に攻撃できる戦闘能力が必要だと
言います。しかし、その考えで本当に
戦争が防げるでしょうか?

お申込みは



コチラ!

2024 **3.16** Sat 14:00-16:30

場所

松本市中央公民館 Mウイング3階3-2会議室

定員 / 90名

※今回オンライン参加はありません。
後日YouTubeで配信予定

会費 / 信州自遊塾会員・学生：無料 一般参加：500円



講演 信濃毎日新聞論説顧問
丸山貢一さん

ロシアが、中国が、北朝鮮が攻めてくる?その前に攻撃をすれば、本当に戦争が防げるでしょうか?
私たちは、こうした情報を、ネットやマスメディアから得ています。情報発信の立場から丸山貢一さんに自由に語っていただきます。

「丸山貢一さんと皆で語ろう」

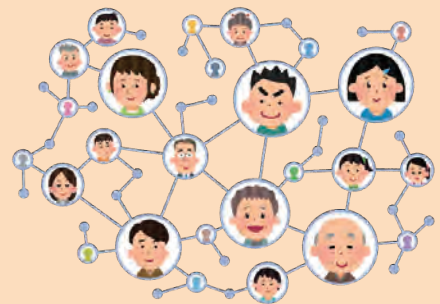
「敵基地攻撃能力」
「台湾情勢」
「北朝鮮のミサイル」について
など、参加者の方々と一緒に
「日本が戦争をしないために」
どうすればいいかを考えたいと思います。

[お申し込み方法] 信州自遊塾<https://jiyujuku.org/>の「講座申込フォーム」または氏名・連絡先を明記の上、FAX0263-84-5611にてお申し込みください。
[問合せ] 090-4911-8209(まつもと)



信濃毎日新聞社論説顧問。1955年長野県上田市生まれ。早稲田大学第一文学部卒。79年、入社。長野本社編集局報道部、大町支局、軽井沢支局などで記者活動。1999年連載企画「介護のあした」のデスクを務め、日本新聞協会賞受賞。長野本社編集局報道部長、同編集局次長兼文化部長、同松本本社報道部長などを経て、2012年10月から論説委員、2014年4月から23年3月まで論説主幹を務め、1面コラム「斜面」、署名入り評論を執筆。現在は毎月第1日曜日にコラム「この地から」を執筆。

自遊塾のご案内



信州自遊塾とは、だれもが参加できる、3.11後の生き方を学び考える場です。信州を愛する人のなかには、それぞれの分野で素晴らしい行動を行い、ものを考え、つくりだしている人がたくさんいます。「信州自遊塾」はこうした人々のネットワークをつくり、講座、エクスカージョン(小旅行講座)などで新しい人間の幸せを、まじめに楽しく、考え、学ぶ場です。活動はホームページでお知らせしています。

抑止に依存する安全

論説主幹 丸山貢一

敵基地攻撃能力保有へ

特撮「ウルトラセブン」の放送開始55年を記念し、代表作の4K映像が今秋各地で上映された。第26話「超兵器R1号」はその一つ。宇宙からの侵略を防ぐため地球防衛軍は核兵器より威力がある超兵器を開発。実験の標的「キエロン星」に向けて発射する。実験を巡ってウルトラ警備隊員の中で議論が交わされる。

脅しで戦争を防げるのか

「超兵器の存在を宇宙に知らしめれば侵略者は来ない」「さらに強大な兵器を持った者が侵略してくるなら、われわれはもっと強力な兵器を作ればいい」

破綻の恐れが常に

米ソが核開発を競った冷戦のさなかだ。政治家や軍事専門家は核保有をどう正当化した。核兵器を使用すれば互いの国が

破壊する。ゆえに発射のボタンはどちらも押せない。核が戦争を防ぐ。「核抑止」論である。通常兵器による戦争も、攻撃をすれば手ひどい反撃を受けると相手に認識させて防ぐ。抑止力こそ安全保障の要とされてきた。抑止力は詰まるところ「脅し」である。その脅し合いのゲームは

に使い乱暴狼藉を働いている。日本は抑止破綻の悲劇に学ぶどころか、抑止一辺倒の安全保障に舵を大きく切っている。敵基地攻撃能力の保有である。「反撃能力」と言い換えても、他国領土を先んじて攻撃できる手段を持つことにならない。射程1600キロで中国本土も攻

ただし、その目標は専守防衛の枠内で海上の迎撃能力など侵略を拒否する防衛力向上に置く。ミサイルの最前線 反撃能力として日本が持つミサイルの威力では脅しにならず、抑止力にはならないとみる。「抑止」の危うさや怪しさに依

能性が排除されないとした。例えば台湾を巡って米中が衝突し、米国から求められた時、中国のしかるべき場所にミサイルを撃ち込む。当然、中国は反撃するだろう。日本はミサイル戦争の最前線に置かれることになる。冒頭のウルトラセブン第26話。破壊されたギエロン星の生物が巨大化して地球に飛来し、東京周辺で放射性物質を大量放出する。そこにセブンが登場する。ギエロン星獣の最期ははかない。軍拡と戦争の罪と罰を一身に背負わされたようにも思える。

誤算や想定外の行動により、時としてもうまくも破綻する。ウクライナは抑止力を得ようと北大西洋条約機構(NATO)加盟に動いた。ロシアのプーチン大統領はそれを口実に侵略した。核保有国には欧米も手を出せない。踏んでいるのだろうか。核をどう喝

撃できる米国製ミサイル「トマホーク」500発を購入。国産ミサイルの能力も強化する。安全保障に詳しい遠藤乾東京大教授の講演を聴いた。遠藤教授は中国や北朝鮮の独裁体制や軍拡を踏まれば「防衛力の強化は不可避」との立場だ。

戦争を念頭に防衛費はGDP比2%でも不足だと訴える専門家がいます。中国や北朝鮮に人々が抱く恐怖や不安が後押しするのだろうか。与党合意では集団的自衛権の行使として相手領土内を攻撃する可

な渦に巻き込まれかねない。

地域発 20-23面

【飯田伊那】自治会で守る山林 【諏訪】養蚕手伝って 【中信】寒さ対策に「ねこ」を 【北信】英語で論戦 全国大会へ 【東信】絵本の肉料理が給食に